

茨城県水産試験場内水面支場に保管されていた ヨウジウオ科魚類 2 種の標本

山崎和哉・外山太一郎

Specimens of two syngnathids preserved at Ibaraki Prefectural Fisheries Research Institute, Freshwater branch

Kazuya YAMAZAKI and Taichiro TOYAMA

キーワード：イッセンヨウジ，テングヨウジ，久慈川，涸沼，南方系魚類，分布記録

はじめに

ヨウジウオ科 Syngnathidae は大西洋，インド洋，太平洋に分布し (Nelson et al., 2016)，日本国内では 21 属 65 種が記録されている (本村, 2021)。その多くは海域に生息するが，ヨウジウオ *Syngnathus schlegeli*，イッセンヨウジ *Coelonotus leiaspis*，ハクテンヨウジ *Hippichthys (Hippichthys) cyanospilos*，アミメカワヨウジ *Hippichthys (Hippichthys) heptagonus*，カワヨウジ *Hippichthys (Hippichthys) spicifer*，クロウミウマ *Hippocampus kuda* など一部の種は河川に出現することが知られている (川那辺ら, 2001；細谷, 2019)。しかし，茨城県の陸水域において記録されているのは，ヨウジウオおよびイッセンヨウジのみで (水資源開発公団・資源科学研究所, 1968；稲葉, 1998, 2007；増子・浜田, 2001；国土交通省, 2021；外山ら, 2021)，その他の本科魚類は確認されておらず情報に乏しい。

そのような中，筆者らが茨城県水産試験場内水面支場に保管されている標本を整理したところ，2001 年に県内で採集されたイッセンヨウジおよびテングヨウジの標本が確認された。これらは県内陸水域において記録の少ないヨウジウオ科魚類であることから，情報蓄積のためここに報告する。

方 法

標本はホルマリン水溶液中に保存されていたため，水洗した後に 70%エタノール水溶液中に保存した。計数・計測方法は中坊・中山 (2013) に従い，計測はデ

ジタルノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った。標準和名および学名は本村 (2021) に従った。標本に関する情報は，標本番号，標準体長 (以下，体長と記す)，全長，採集地点，採集年月日，採集漁具，採集者の順に記した。報告に用いた標本は，ミュージアムパーク茨城県自然博物館の動物資料 (INM-1) として登録・保管した。

記 録

Coelonotus leiaspis (Bleeker, 1854)

イッセンヨウジ (図 1)

標本：INM-1-96961，体長 100.4 mm，全長 106.8 mm，常陸太田市堅磐町地先の久慈川，2001 年 8 月 27 日，投網，中村 誠・根本隆夫・久保田次郎。

備考：本標本は主鰓蓋骨の縦走隆起線が不明瞭であること，背鰭軟条数が 56 であること，躯幹輪数が 17 であること，躯幹部と尾部の上隆起線が不連続であること，下隆起線が不明瞭であることなどが，瀬能 (2013) に示されたイッセンヨウジの記載と一致したため，本種に同定された。

本標本は，久慈川水系の魚類を包括的に記録した稲葉 (2007) におけるイッセンヨウジの記録の根拠となった標本であり (飯館村教育委員会 稲葉氏私信)，同文献には茨城県内水面水産試験場 (現在の茨城県水産試験場内水面支場) において標本を確認したことが記されている。なお，本標本は県内で初めて採集された個体で，以降本種は同じく久慈川において 2 例確認さ



図1 イッセンヨウジ *Coelonotus leiaspis* の標本 (INM-1-96961, 体長 100.4 mm)



図2 テングヨウジ *Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus* の標本 (INM-1-96962, 体長 112.1 mm)

れているが、県内他水系における記録はない（国土交通省，2021；外山ら，2021）。

Microphis (Oostethus) brachyurus brachyurus
(Bleeker, 1854)
テングヨウジ (図2)

標本：INM-1-96962，体長 112.1 mm，全長 119.4 mm，東茨城郡茨城町上石崎地先の涸沼，2001年8月24日，張網，中村 誠。

備考：本標本は吻長が頭長の64.4%であること，主鰓蓋骨の縦走隆起線が明瞭であること，背鰭軟条数が39であること，躯幹輪数が21であること，躯幹部と尾部の上隆起線が不連続であること，躯幹部と尾部の下隆起線が不連続であること，尾部が躯幹部より短いことなどが，瀬能（2013）に示されたテングヨウジの記載と一致したため，本種に同定された。

これまで，茨城県においてはひたちなか市の那珂湊漁港で採集された例のみ知られており（棟方ら，2022），本報告に用いた標本が県内陸水域における初記録となる。

謝 辞

本報告を執筆するにあたり，標本の採集データについてご教示いただいた元茨城県内水面水産試験場の中村 誠氏，情報を提供いただいた飯舘村教育委員会の稲葉 修氏に厚くお礼を申し上げます。

文 献

- 細谷和海（編）（2019）山溪ハンディ図鑑 増補改訂 日本の淡水魚．山と溪谷社，東京．560 pp.
- 稲葉 修（1998）茨城県北部沿岸水系の魚類．茨城生物；（18）：62-76.
- 稲葉 修（2007）久慈川水系の淡水魚類．ミュージアムパーク茨城県自然博物館（編）茨城県自然博物館第4次総合調査報告書．pp. 279-294，ミュージアムパーク茨城県自然博物館，茨城．
- 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海（編）（2001）日本の淡水魚 改訂版．山と溪谷社，東京．719 pp.
- 国土交通省（2021）河川環境データベース．<http://www.nilim.go.jp/lab/fbg/ksnkankyo/>（参照 2022-01-31）
- 増子勝男・浜田篤信（2001）涸沼および涸沼川の魚類．ミュージアムパーク茨城県自然博物館（編）茨城県自然博物館第2次総合調査報告書．pp. 291-302，ミュージアムパーク茨城県自然博物館，茨城．
- 水資源開発公団・資源科学研究所（1968）利根川河口堰建設事業に伴う水産動物に及ぼす影響予測解析調査．水資源開発公団．231pp. + 17 pls.
- 本村浩之（2021）日本産魚類全種目録 これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名 Online ver. 12．<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/jaf.html>（参照 2022-01-27）
- 棟方航平・黒田悠真・外山太郎（2022）茨城県初記

- 録の魚類 14 種. ニッチェ・ライフ;(10):69-74.
- 中坊徹次・中山耕至(2013) 魚類概説 第三版. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. pp. 3-30, 東海大学出版会, 秦野.
- Nelson, J. S., Grande, T. C. and Wilson, M. V. (2016) *Fishes of the World*. John Wiley & Sons. Inc., Hoboken.
- 瀬能 宏(2013) ヨウジウオ科. 中坊徹次(編) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版. pp. 615-635, 1909, 東海大学出版会, 秦野.
- 外山太一郎・山崎和哉・大森健策・金子誠也・中嶋政明・加納光樹(2021) 茨城県久慈川とその周辺河川で採集された南方系魚類. 茨城県自然博物館研究報告;(24):77-84.